

Notice
2018.12

第13回 曾於市子どもフェスタ

by 社会教育課 ☎ 099-482-5958



少年の主張発表者



テーマ考案者の
財部小 丸山 隆平 さん



司会進行を務めたリーダー研修生

曾於市の子どもの祭典「第13回曾於市子どもフェスタ」が10月20日（青少年育成の日）、末吉総合センターと末吉総合体育館で開催されました。

子どもフェスタは、子どもたちの健全育成の根底にある「人と人のふれあい」を通して「人を思いやる心」「互いに協力し合う心」を育て、人間関係の強い絆の結びつきをめざして開催されています。

今年のテーマは「楽しく 学び 遊ぼう！おいでよ子どもフェスタ☆」。

当日は、午前中に末吉総合センターで少年の主張大会、そしておジュニアコーラスの合唱、各青少年事業の体験発表が行われました。

午後からは、末吉総合体育館に会場を移して、13の体験ブースで「わくわく体験コーナー」が開かれました。参加した約400人の子どもたちは、それぞれ楽しい時間を過ごしていました。

子どもたちの笑顔は、曾於市の大切な宝物です。そんな笑顔が輝く素敵な一日となりました。

フォトギャラリー

そおジュニア
コーラスの合唱



青少年リーダー
研修生の発表



青少年海外派遣事業
シアトル研修生の発表



チャレンジ・ザ・日本ー
「富士山登山」研修生の発表



少年の主張大会

各受賞者一覧（敬称略）

小学生の部

最優秀賞

「ぼくの恩返し」

得丸 恵太郎（末吉小6年）

優秀賞

「中谷小いつまでも」

下川 幸慎（中谷小6年）

優良賞

「私のふるさと自慢」

丸田 こころ（財部北小6年）

「だれもが安心できる場所」

東丸 芽生（深川小6年）

「友達作るぞ」

二宮 和香葉（大隅北小6年）

「助け合い、支え合える校区に」

小山 偉暉（柳迫小6年）

「笑顔でステキなアナウンサー」

加藤 里桜（財部小6年）

中学生の部

最優秀賞

「今を大切に生きる」

松本 陽菜（末吉中2年）

優秀賞

「平和への第一歩」

春田 莉沙（大隅中2年）

「理想の世界」

下鶴 千夏（財部中2年）

小学生の部【最優秀賞】

ぼくの恩返し

末吉小学校 六年 得丸恵太郎



「けいちゃん鼻の下の傷、どうしたの？」

と、友達に聞かれることがある。ぼくはそのたびに、「ちっちゃい時に、手術したんだよ。」

と、答える。ぼくは、赤ちゃんのころに、一度も、大手術をした。そして今は、歯並びが悪いので、矯正歯科に通っている。おかげで、ぼくは、口を大きく開けて「ワッハッハ」

と、大笑いできるようになった。ぼくをこんなに笑顔にしてくれた、矯正歯科の先生が、ぼくには、とてもカッコよく見えた。この事がきっかけで、ぼくの将来の夢が、矯正歯科医に決まった。

ぼくは、生まれた時、口唇口蓋裂という、五百人に一人の病気で生まれた。どういう病気かというと、鼻から口まで切れていて、上あごにポツカリと穴が

開いている病気だ。だから、生後四カ月で唇の切れたところをぬう手術と、一歳二カ月で、上あごの穴を閉じる手術をした。ぼくは、とても小さかったので手術のことは、全然覚えていない。そういうえば、ぼくの小さいときの写真のほとんどが、鼻の下にテープがはってあって、何でだろうと思ってお母さんに聞いたことがある。

「けいちゃんは、生まれたとき、鼻から口まで傷があって、その傷が広がらないように、テープでとめていたんだよ」

とお母さんが教えてくれた。ぼくがテープをはった姿を他の人には、見せなくなかったそうだ。赤ちゃんのころは、ずっと家にいたらしい。ぼくが、ふつうに生まれてこなかったのは、自分のせいだと、お母さんは毎日泣いていたそうだ。

そうして、二度の手術で、ぼくは、たまに傷のことは聞かれるけど、そんなにいやな思いをしなかった。だけど、大きくなるにつれて、歯並びが気になりだした。なぜかというのと、大人の歯の前歯がふつうの歯の向きとはちがう向きに生え

てきたからだ。つまり、ふつうの歯が横向きだとするとぼくの前歯は、たて向きに生えてきたのだ。大きく口を開けるとものすごく目立つ、ぼくの前歯。ぼくはこの前歯がともいやだった。矯正歯科の先生でも、ぼくの前歯は絶対に直せないだろう。ぼくは心の中で思っていた。ぼくの矯正治りようは、五歳から始まった。最初に型をとって、矯正の金具をつけて、その後何度も金具の調整に行ったり、歯もぬいた。時間はかかったけど、ぼくのたて向きの前歯は、今では横の歯と同じ向きに並んでいる。とてもうれしいし、何よりも、ぼくの前歯を直してくれた、歯医者さんは本当にすごいと思う。

だから、ぼくは矯正歯科医になりたい。今まで、色々な人に支えられてきたから、今度はぼくが、恩返しをする番だ。ぼくが治りようをして、たくさんの人を笑顔にしたい。



中学生の部 【最優秀賞】 今を大切に生きる

末吉中学校 二年 松本 陽菜



永遠。その言葉にみなさんは、どんな印象を持ちますか。私は、大きな希望と、それと同じくらい大きな不安が浮かんできます。楽しいことが永く続くと思うとわくわくしますし、苦しみが続くと思うと不安になります。

私は最近、鎌倉時代の随筆である「徒然草」を読んで、永遠について考えてみる機会がありました。徒然草には、小話も多く入っていますが、世の無常について語られている段や文があります。例えば、第七段の、あだし野の露きゆる時なく、鳥部山の烟立ちさらでのみ住みはつるならひならば、いかにものあはれもなからん。世はさだめなきこそいみじけれ。という文。現代語になおすと、あだし野におく露の消えるときがなく、鳥部山の煙が立ち去らないでいる

というように、人間がこの世の中に、いつまでも住み続けることのできる習わしであったなら、どんなに深い情趣もないことだろう。この世は不定であるからこそ、素晴らしいのだ。という意味になります。このような段が、全体のテーマとなっていています。私はこれを読んで、この世界は儂くもろいものだということを学びました。大切な人もいつかは亡くなり、栄えた場所、徒然草は教えてくれました。こうして世の無常について理解はできたのですが、徒然草を読んだとき、私は拭いても拭いきれない不安や寂しさに襲われました。この儂い世界の中で、どう生きていけばいいのか、そんな疑問を抱きました。そしてその答えを求めて、手に取ったのは、徒然草でした。再度読み直すと、著者である兼好法師の生き方が見えてきたような気がしました。今を楽しむという生き方です。兼好は、色々なことに興味を持ち、繊細な感覚で物事を受け止めて、常に学ぶ姿勢を忘れませんでした。兼好は、いつかは全て終わるのだから、今を楽しみ、

今を充実させようと考えたのだと思います。そして私は、この儂い世界では、今を楽しみ、今を大切に生きていけばいいということに気が付きました。

永遠に続くものは、ありません。長いように感じられる命にも終わりがあります。命も世界も人と人との関係も、楽しいときも苦しいときも、永遠ではないのです。だから、一日一日を大切に生きなければならぬのではないのでしょうか。一分一秒に感謝し、完璧ではなくても一生懸命に生きていくことは、とても美しいことだと、私は思います。毎日の儂さを意識しながら今を楽しむ生きる、そんな生き方を、みなさんも私と一緒に、見習っていきませんか。



曾於市子どもフェスタ開催について

市子ども会育成連絡協議会

会長 岩水 豊



13回を開催できた子どもフェスタは、多くの方々の協力で開催できたことに感謝いたします。「少年の主張大会」では、児童生徒が将来の夢・家族への感謝の言葉・故郷への思いなど素晴らしい発表をしてくださいました。

多くの人の前で、自分の意見を語ることは、非常に有意義なことだと思います。学力向上にもつながるので感じました。また、話を聞く側の子どもたちにも大きな影響を与えてくれたと、確信しました。

昼食は、女性部の皆さんによる100円カレーの提供でおいしくいただけることができました。

午後の「わくわく体験コーナー」では、青少年指導員、市子連の理事、青年団、そお文化村など多くの方々との協力で、盛り上がりました。子どもたちの目線で接するスタッフの対応に関心しました。多くの皆様のご協力ありがとうございました。今後子どもたちの成長を、家庭、学校、地域の方々、行政などすべての市民の協力で支えていきたいです。